

古代出雲の暮らし

8世紀の「出雲国風土記」からは、古代出雲の日常生活を垣間見ることができます。その中には、出雲で採れる地元の農作物や海産物のリストが掲載されています。「出雲国風土記の世界」のギャラリーでは、川岸の市場の賑わいを実物大のジオラマで表現しています。これは、風土記やその他の史料にある情報に基づいて作成されたものです。

貿易は、米や布を通貨として使い行われていました。展示では、地元の人たちが集まって、市場で売られている商品を品定めしています。売り子の一人が手にしているのは、古代出雲の名産品であり、現在でも地元の特産品であるスズキです。この魚は、オオクニヌシノカミの宴で出されたとされる「国譲り神話」にも登場します。

「歌垣」のミニチュア・ジオラマでは、若い男女が泉のわく岸边に集まり、歌を詠んで、お互いに求愛する様子が描かれています。また、展示室では、このような集まりで出会った男女の架空の物語をアニメーションで語っています。ある意味では、古代の歌垣は、現代の「合コン」のように、食事やお酒を楽しみながら親睦を深めることにも似ています。